
透明傘

B J

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

透明傘

【Nコード】

N5086I

【作者名】

B J

【あらすじ】

突然別れを告げられた。私。

突然別れを告げた。僕。

二人の想いは同じなのに同じ道を歩く事が出来ない二人

(前書き)

BJです。

三作目ができました。

どうぞ飽きずに見て下さい。

星が見えない夜。

止める車の中あなたは遠くを見ている。

「・・・えっ？今なんて・・・」

私の質問にあなたはちゃんと答えた。

「・・・別れよう・・・と言ったんだ」

フロントガラスに降り出した雨が知らない顔で音を立てる。
いつもこの場所から色んな町並みやあなたの姿眺めていた。
いつまでもこの関係が続くと思っていたのに。

最後は笑顔でいようと昔二人で誓っていたのに守れなくて。
私は泣き出してしまった。

ごめんね

ずっと私は知らない間に求めすぎてたのかな？

もう少しだけあなたを好きでなければもっと一緒に居られたかな？

あの夜の前の日。

私とあなたは瞬きする音が聞こえそうなくらい近くにいても
縮まることのない距離が出来たこと私は気付いてた。

「（ううん。気付かない振りをして逃げてただけだね）」

私はいつもと一緒にであなたと出掛けたね。

私とあなたはCD屋に行つて私が好きなアーティストの曲を取る。
それをレジに持つていった時に（フト）気付いた。

いつの間にか私が選ぶ物はあなたの好きな物になつてた。

私が何かで不安な時も、負けそうな時もあなたの言葉が私だけのお
守りみたいだった。

いつもあなたがすぐ隣にいてくれる気がしてたよ。

あの別れた夜から数日後。

大粒の雨に打たれながら傘もささずに歩を進める。

あの時のあなたの言葉があるからどんなに強い雨でも歩けると思ってた。

あなたが肩を濡らしながら傘をさしてくれた事に気付けずにいた。

もしもあなたの事が思い出に変わったら幸せ過ぎて退屈な日も泣きすぎて疲れた夜も全て同じくらいに大切だった事を
本当に好きだった事を、本当に愛されてた事を

私は後ろを振り返る。

私は初めてあなたに気付くのでしょうか。

君と出会った日もこんな雨の夜だったね。

あの日から僕らは飽きる程そばにいた。

いじけた電話の声。車の中歌う声も。

君はいつでも僕に幸せをくれたのに。

「（何故、僕達は別れてしまったのだろうか）」

それは僕が別れを切り出したから・・・

（・・・別れよう）

あの夜から僕はあの夜の事を毎日夢見るようになった。

僕は君と僕の間距離を感じてしまっていた。

僕は傘をささずに雨に濡れている君の姿を見つけた。

（ドクンッ）と心が跳ね上がったのを僕は必死に抑えようとする。

「僕はまだ君を追い続けているんだね。でも僕達は終わったんだ。他でもない僕が終わらせたんだ。もうあの夢のようだった関係には戻れない君は戻らない」

僕は心を抑えこんで君を見つめる。

「（さよなら君と歩いていた日々）」

街には止まない雨が降り続ける。

「（雨に濡れた冷たい君の両手を温める事が出来ないなんて）」

言葉よりも早く正直過ぎる唇も
わがままな横顔も全てが好きだった。

「（君がいるだけで僕は僕でいられたんだ。どんなに疲れた夜でも君に会いたくなかった日なんて一度もなかった）」

濡れている空に君を探しても涙の奥で雨が降り続ける。

濡れた指で描いた未来に君の姿が見えなくなる。

勢いよく落ちてくる雨を見つめる君を本当は今すぐに強く、強く抱きしめたかった。

僕はただ君を傘で雨から守る事しかできなかった。

「（小さくなってく君の足音・・・僕には君を追いかける事が出来ないなんて）」

君は最後に僕に気付いてくれたね・・・ありがとう。

（後書き）

この後の話は皆さんのご想像にお任せします。
どんな話にしてくれたのか教えてくれたら嬉しいです。

最後に感想・評価等があると嬉しいです。ではまた何処かでお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5086i/>

透明傘

2010年10月28日08時39分発行